

玉井小だより

平成29年1月31日
大玉村立玉井小学校

TEL (48) 3302

発行者 校長 佐藤一男

「歴史と伝統」が子どもたちの力になります

1月22日(日)、第2回大玉村民俗芸能大会が開催され、玉井小学校の5年生も「本揃田植え踊り」を発表しました。子どもたちは自信と誇りをもって舞台上に立っていたように思います。

変化の激しい時代ですが、そういう時代だからこそ、変わらない「田植え踊り」の価値は高くなっていくのだと思います。

歴史や伝統の中には、それを大切に守り、つないできた人たちの思いや願い、そして生きる知恵や工夫のようなものが込められているのだと思います。そのような歴史と伝統を受け継いでいくことで、子どもたちの人生はより豊かで力強いものになっていくのだと思います。それは「生きる力」そのものでもあると考えます。

先日の創立記念日に、「先輩のいいところをまねして、自分たちもきちんとできるようにしていくことが『歴史と伝統を守る』ことになる」と話しました。

「先輩に、恥ずかしいまねはできない。」という思いがあると、がんばれることもあります。今、4年生、5年生は鼓笛隊の引き継ぎに向けて一生懸命練習しています。そして6年生は一生懸命教えています。



【伝統を守り、引き継ぐ5年生】



【鼓笛隊、6年生が最後まで面倒を見ます】

連絡とお願い

本日31日(火)、本校ではインフルエンザによる出席停止児童は2名、発熱等による欠席が5名です。まだインフルエンザや風邪が蔓延している状況ではありません。

しかし、安達地区内ではインフルエンザが広まり、学級閉鎖をしている学校もあります。

ご家庭でも、朝の段階で、お子さんの健康状態をていねいにみていただき、熱があったり、体調が悪かったりしたときは、無理して登校させず、必ず医療機関を受診するようお願いいたします。また、土曜日、日曜日にインフルエンザの診断がでた場合は、月曜日を待たずに、すぐに担任へ連絡してください。蔓延の心配がある場合は、月曜日からでも「学級閉鎖」等の対応をとりたいと考えています。よろしく申し上げます。

〈裏へ続きます〉

寒い時期ですが、発見もあります

『キック、キック、トントン。
キック、キック、トントン。
キック、キック、キック、キック
トントントン。』

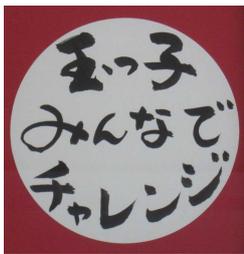
これは、宮沢賢治が書いた『雪渡り』という童話の中で繰り返し出てくるものです。四郎とかん子が、小さな雪沓をはいて、キック、キック、キックと一面雪に覆われた野原に出て行き、小狐の紺三郎とお話をしたり、歌を歌ったり、映画を見たりするお話です。



【雪も楽しいね】

雪が積もった日の朝、校庭を歩くと本当にこの「雪渡り」のようなキックキックという音がします。寒さの中にも、素敵な発見があります。一年で最も寒い時期ですが、子どもたちは毎日、元気に過ごしています。2月に入ると、そり教室、スキー教室も行われる予定です。

来年度の教育の方向について



今年度は玉井幼稚園、小学校共に『玉っ子 みんなで チャレンジ』を合い言葉に、教育活動を進めてきました。4歳、5歳の幼稚園の子どもたちも、集会で話をする際など、こちらが「玉っ子・・・」と言うと、「みんなでチャレンジ」と応じてくれるようになりました。

教育に対する思いや願いを、子どもたちと先生方、そして家庭や地域皆様方みんなで共有することはとても大切なことだと思っています。

今、学校では、来年度の教育の計画をつくっています。

学校は地域と共にあり、地域と共に歩んでゆくことが大切かと考えています。学校でどんな教育が行われているのか、これからどのような方針で子どもたちの教育活動を進めていくのかということ、保護者の方々はもちろん、地域のみなさま方にも知っていただき、一緒に学校づくりを進めていきたいと考えています。

平成29年度は、特に次の5つの点を改善・充実していきたいと考えています。何かご意見等がありましたら、是非学校にお知らせください。

- (1) ボランティア活動を充実して地域貢献、社会貢献、社会参画の意識を高める。
その中心になる活動として、「日本で最も美しい村クリーン活動」を子どもたちが中心になって、さらに充実していく。
- (2) 総合的な学習の時間で、子どもたちの疑問、興味・関心を大切にしたい探究活動を充実する。
- (3) ネット社会を生き抜く力「賢明な判断力」を育成する学習を計画する。
- (4) 保護者・地域住民の学習参加を年間計画に位置付ける。
- (5) 年間5回の授業参観のうちの1回を、保護者参加型の授業にする。